

令和4年度第1回社会教育委員会議 議事録

日時	令和4年5月26日（木） 10:00～11:40
場所	福岡市役所議会棟7階 第1・2応接室
出席者	別紙のとおり
議題	(1) 令和4年度社会教育関係団体補助金について
報告	(1) 社会教育関係職員研修（基礎研修）の実施状況等 (2) 令和4年度指定都市社会教育委員連絡協議会（開催予定） (3) 分科会の経過報告 (4) その他
公開・非公開	公開
傍聴人の数	なし

1 開会

2 教育次長あいさつ

3 委員の紹介

4 議題

(1) 令和4年度社会教育関係団体補助金について

○福岡市PTA協議会事業補助金

事務局

(福岡市PTA協議会事業補助金について資料説明)

議長

ただ今の説明について、ご質問・ご意見等をお願いする。

委員

PTA 活動をしている方々の課題を教えてください。PTA 役員のなり手が少なく、一人が何役もしているという声を聞く。PTA 活動を続けていいのかという問題も抱えている。審議をする場ではないので、どういった課題を抱えているのかを報告いただくとありがたい。

事務局

PTA は学校の中で学校とともに子ども達の健全育成を図るための団体で、戦後作られ

てから、時代の変化とともに、任意団体であるが入会を強制されたり、委員決めが難航した場合に、強制的に委員をやらされたりといった課題があると聞いている。福岡市 PTA 協議会ではそのようなさまざまな課題を考慮し、検討していると聞いており、それぞれの学校でも工夫しながら取り組んでいる。あくまでも任意団体である社会教育関係団体のため、行政として意見するのは差し控えるべきだが、相談があればできる限りのことは力を尽くして、情報提供などしていきたい。

委員

数年前から PTA は任意団体だということを保護者に周知徹底している。各学校ではなり手が少ない現状を踏まえて、PTA 活動を充実させる対応を考えている。

委員

小学校でもコロナ下で PTA 活動のあり方について見直す良い機会になっている。この 2～3 年でより良い形になっていると思う。

委員

補助金算出の根拠を教えてください。

事務局

市の予算として 150 万円予算措置をしている。福岡市 PTA 協議会が補助金交付要綱に則して対象となる事業をピックアップしたものが資料にある研修や広報紙作成等の事業になる。それがトータルで 500 万円弱の費用がかかるため 150 万円交付するということだと考えている。

議長

対象事業とどのような補助内容があるか見える形になると、補助金でどう活性化されるかさらに見えてくるのではないかと思います。

○福岡市立高等学校 P T A 連合会事業補助金

事務局

(福岡市立高等学校 P T A 連合会事業補助金について資料説明)

議長

ただ今の説明について、ご質問・ご意見等をお願いします。
(各委員からの質問等なし)

○人権啓発地域推進事業補助金

事務局

(人権啓発地域推進事業補助金について資料説明)

議長

ただ今の説明について、ご質問・ご意見等をお願いします。

委員

各人尊協が 25 万円の補助金でどのように活動していくべきなのか。ほとんどの校区が執行額 25 万円となっているが、コロナの状況を考えると3分の1くらいが妥当。どのような活動をして、どのような効果、課題があったのか教えていただきたい。

事務局

校区によって温度差があることは間違いない。例えば運営の委員が固定化されて世代交代が進まなくなったり、活動に工夫の余地がなくなったりといったさまざまな悩みを抱えながら各地域で頑張っている。活動上の悩みは各区の生涯学習推進課で相談を受けているので、区の機能を活用していただきたい。費用の面に関しては、校区の中で自治会からの財源をもらってプラスアルファで活動しているところもある。どう使い切るか悩んでいるところもあれば、足りないところもあり、切り分けは難しいため、25 万円を一律で渡してどのように使われるか報告を見ていくという運営をしている。行政としてどういう使い方をしているのかチェックは必要である。

委員

人尊協の7区の横のつながりはあるか。

事務局

担当者レベルでは定期的に会合を開いて情報交換をしている。

委員

令和4年度と令和3年度の決算書を見ていると、会議・事務費の令和3年度は令和4年度と倍近く金額が違うのはなぜか。令和4年度になるとコロナが少し緩和されて活発な活動になるはずではないのか。

事務局

校区の考えによるとしか言いようがない。コロナがあけて研修活動費にお金がかかるので、優先的に予算措置をしたのではないかと想像する。

委員

各団体の予算建てと補助金の積算根拠は必要。なぜこの予算申請なのかを明らかにしていただかないと我々としては議論のしようがない。

また、この場での議論は教育委員会に対して社会教育委員会議として意見を提出する場なので、意見を教育委員会にあげていただきたい。

事務局

1 団体あたりの額である 25 万円の内訳についての予算上の想定はあるが、あくまでも予算上の見積みなので、この通りにやらなければならないわけではない。どのように使うかは各団体の判断による。

議長

PTA も人尊協も、団体の方と話し合う機会もあると思う。また当会から意見が出たと

いうことは共有し合ってより良くしていくことで進めていっていただきたい。

委員

市 P 協と人尊協の補助金が社会教育委員会議の議題になるのはなぜか。ぼちぼちの会という不登校生徒の親の会があり、学校に行けない子供たちの自主夜間学級を運営している。家庭の教育力パワーアップ事業の補助金を議題にすることは可能か。

事務局

補助金について社会教育委員に意見を聞いているのは、交付先の団体について強制的な支配を行っていないか意見を伺っていることが趣旨であると認識している。議題については、基本的には教育委員会で所管している補助金を対象としている。狭義の第一義的な意味で社会教育を行政目的として行う団体に対して交付される補助金を報告の対象としている。

事務局

家庭の教育力パワーアップ事業は人権・同和教育課の所管だが、地域の教育力育成支援協議会で助成の判断をいただいている。予算費目では補助金ではなく負担金であり、対象外である。

5 報告（1）社会教育関係職員研修（基礎研修）の実施状況

事務局

（社会教育関係職員研修（基礎研修）の実施状況について資料説明）

議長

ただ今の説明について、ご質問・ご意見等をお願いする。公民館の側から何か意見はあるか。

委員

この研修は公民館職員にとっては非常に重要。公民館の職員としてこのような研修を受けて、やる気が出たというのが一番ありがたい。何度も受講することができるが、名前が基礎研修となっているため、2 回目の受講をためらう人がいるのでネーミングを心配している。

委員

受講された館長さんから、先生方のお話を聞いて、自分がこれまで思っていた通りでよかったんだと思ったという声を多くいただいている。現実と館長の思いがかけ離れていたのを埋めることができる大事な研修だと実感している。今日来ていただいている先生に話を伺いたい。

委員

受講者の学習ニーズの高さに励まされる。研修を行っている中で、この研修の必要性を講師として実感している。基礎編の研修を行っているが、内容をリニューアルして充実したものにしていきたい。

委員

毎回楽しみにしている。公民館職員が地域や地元のことを学んで知っていただき、そこでどのようなニーズがあるのかを意識していただく。公民館職員として地域住民にどのようなサービスが提供できるかを議論する場を設けている。また、他の館長や主事との横のつながりを作る場としても活用していただいている。

委員

非常に大事な取り組みである。公民館職員の方を指導支援する行政職員の専門性をどう高めていくかが課題になる。社会教育主事等の専門資格をもった職員の数が減ってきているのではないか。推移がわかれば教えていただきたい。また、今後、市の職員の専門性を維持し、高めていくための方向性、方針等があれば聞かせていただきたい。

事務局

年に1名から2名程度が社会教育主事講習を受講し、専門性を高めている。予算措置については課題もあるが、専門性を高めていくと同時に、公民館職員と同じ気持ちを持ってともに歩んでいけるような意識を養っていく必要があると考える。

委員

公民館の取り組みは大事になってくる。コロナ下で外に出られないから近くで学ぶ。最近、地区の公民館の講座に参加した際に、思った以上に活発だったので非常に驚いた。現場をどのように活性化させていくかが大事になるので頑張ってもらいたい。

事務局

コロナ下に公民館は閉館を余儀なくされ、地域の方も公民館も苦しんだが、その中でどんなことができるかを考えてきた。他都市と比べても福岡市は閉館中に個性のある多様な取り組みを行ってきた。令和3年度に公民館のWI-FI環境を整備しており、オンラインも活用しながら、新しい観点を養うきっかけになったのではないかと考えている。受講者アンケートで多かった意見としては、やろうとしていたことの後押しをしてもらった、新しいチャレンジができそうだという声があった。また、相談できる仲間ができたという感想が多く、知識・モチベーション・ネットワークの向上のため、今後とも力を入れて進めていきたい。

委員

公民館は地域の窓口であり交流の場でもある。コロナで公民館の活動の重要性を実感した。コロナの感染が大きくなったり少し緩和されたりというのがあったが、サークル活動を公民館や体育館で行うときに、校区や地区で考えが違うのはやむを得ないのか。

事務局

校区で考え方が違うというのは感じている。様々な要素があると思うが、高齢者の比率や感染拡大状況なども校区により差があり、地域の特性によって住民が考えるリスクの基準も変わってくるのではないか。

委員

小中学校の施設を使用するときは教育環境課の指示に従っている。学校の先生方と相談しながら、コロナの状況を鑑みて決めている。公民館だけで決めることはほぼない。

委員

公民館は地域の暮らしの拠点であり、気軽に利用しやすい場であってほしい。館長や主事が社会教育を学んでいただけると利用者はとても話がしやすくなる。

議長

各校区に1館公民館があるのが福岡市の自慢である。公民館の学習内容の活性化と職員の向上はもちろん、研修をさらに向上させていくことが大事。コロナが収まってきたら、公民館の多くの職員が受けやすいような形にしてもらいたい。

5. 報告（2）令和3年度指定都市社会教育委員連絡協議会について

（議長の出席予定を報告）

5. 報告（3）分科会の経過報告について

委員

（分科会の経過報告について資料説明）

議長

ただ今の説明について、ご質問・ご意見等をお願いします。

委員

生涯学習の方向性、ビジョンについて整理するとまとめられているが、最終的にどのような形で啓発するのか。

事務局

今回は社会教育委員からの提言であり、その後ビジョンとしてどのように着地するかというワンステップが次にある。特に学習者に見ていただきたいと思っているが、どのような形でというのはまだ見えていない。少なくともホームページで広く周知することは必要である。

委員

福岡市らしさ、文化、学習はこれから大事になってくる。今まで福岡市は経済優先で進んできているが、そういったことに力を入れていくなら未来は明るい。

委員

学生や地域に現状のアンケートを取って生涯学習への認識を調査し、目標を立ててはどうか。

事務局

広聴課が行っている市民意識調査の中で生涯学習に関する調査を今後行っていく予定である。

委員

今回の提言は誰に提言するのか？

事務局

教育委員会に対する提言である。

委員

誰に提言するかは重要。福岡市の施策の柱になることも多く含まれるので、ぜひ市長に提言してほしい。先生方と相談して決めてもらいたい。

事務局

先生方と協議しながら対応していきたい。

委員

社会教育委員会議の役割としては提言の相手としては明確ではないか。

事務局

基本的には教育長への提言であると考えている。

委員

だからその内容を越えるのはこの会議では難しいと思うが。

委員

同意見である。

事務局

今の話し合いで良ければ、それを回答とさせていただきます。

議長

社会教育委員の会議としてその領域を踏まえて進んでいく。先生方から出たように、社会教育委員会議として教育長に提言するものと思っている。改めて、生涯学習をもう一度教育委員会サイドから見っていく点では大変タイムリーだと思う。また、こども家庭庁ができて行政も多様化に対応するため、連携、ネットワーク化して解決するなど様々な方法が考えられる。また先生方とともに進めていただき、またこの会議で中間報告もいただきたい。

委員

社会教育委員として教育委員会に提言をする。提言はホームページで公表する以外にもパンフレットや小冊子にして学校教育現場に配布するのもあり得ると思う。学校教育に関して言及しているのは、今までの他の自治体の社会教育や生涯学習の計画にはないもの。学びをどのように支援するかを示すのは、他の自治体にはない福岡らしい社会教育、生涯学習のビジョンとして受け止めてもらえるだろう。他の部局でも社会教育あるいは生涯学習に関する事業への支援や取り組みを行っている。その全体を福岡市の生涯

学習として位置づけたいというのが大きな思い。

議長

社会教育が地域や子どものためにどのように関わりを持っていくか、という点は今求められているところである。その点も委員の先生方から意見をいただき、分科会からも取材が入ると思うのでいろいろな思いを出していただくと良いものができると期待している。よろしくお願いします。

委員

教育を受ける側の子どもだけではなく、子どもが参画していく場面にも期待する。

5. 報告（4）その他

事務局

（夜間中学について説明）

議長

ただ今の説明について、ご質問・ご意見等をお願いします。

（各委員からの質問等なし）

6. 閉会

令和4年度第1回社会教育委員会議出席者名簿

【社会教育委員】

委嘱区分	氏名
学校教育関係者	浦 美保子
	増田 瑞穂
社会教育関係者	木内 潤子
	萩尾 憲子
	宮浦 寛
	山本 啓湖
	安武 籌子
	下山 いわ子
家庭教育関係者	重永 侑紀
学識経験者	楠 正信
	古市 勝也
	圓入 智仁
	植上 一希
	橋爪 秀三

【事務局】

役職	氏名
教育次長	福田 大二郎
教育委員会総務部長	中尾 聡志
教育委員会教育支援部長	齊藤 啓一
市民局コミュニティ推進部長	西林 一彦
市民局コミュニティ推進部生涯学習課長	宮川 有希
教育委員会総務部人権・同和教育課長	大久保 治郎